

(様式1)

## 自己評価表

(愛媛県立松山工業高等学校定時制課程)

学校番号(24)

教育方針	教育基本法の本質にのっとり、人格の完成を目指し、民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を養い、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献する豊かな人間性と創造性を備えた実践的な技術者を養成する。	重点目標	1 自ら学び、自ら鍛え、たくましく生きる力のある生徒の育成 2 豊かな人間性と発想力・創造力・実行力のある生徒の育成 3 日本と地域を支えるため、未来を切り拓く産業人の育成
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
学習指導	生徒の興味関心指導の推進	出席率90%を目指す。	C	1年生は94%、2年生は88%、3年生は93%、4年生は80%、全体では88%であった。	1、3年生は目標を達成できたが、全体では達成できなかった。ただ、出席意欲は向上しており、授業への取組も改善されつつある。学校行事や授業内容等の改善や資格取得の奨励、進路指導やキャリア教育を更に充実させ、学校への興味や関心を高めていく。
		皆勤率20%を目指す。	D	今年度は皆勤者がいなかった。	
	基礎学力の充実	分かる授業の展開による進級率100%を目指す。	B	授業アンケートでは、わかりやすいが65%、普通が35%、わかりにくいのが0%であった。進級率は、1年生は100%、2年生は100%、3年生は100%、4年生は83%、全体では95%であった。	担当教員はよく頑張っているが、今まで以上に良い授業を目指し、個々の指導の充実を図っていく。
		各種資格試験・検定試験の充実	危険物取扱者試験合格率30%以上を目指す。	A	甲種合格者1名を達成し、全体でも83%の合格率を達成した。
計算技術検定合格率、機械科70%以上、建築科60%以上を目指す。			B	受験生は4名で合格者は2名であった。機械科の合格率は50%、建築科の合格率は100%であった。	基礎学力の定着と基本的な生活習慣の確立が肝要である。
建築競技設計での出品を目指す。			A	2年生が1名、木造住宅の模写の課題に出品をした。愛媛県教育委員会教育長賞を受賞した。	一人でも多くの生徒が出品できるように、製図の指導方法を改善し生徒の意欲を向上させていく。
	資格取得・検定合格一人一つ以上を目指す。	C	全校生徒22名中、16名が一つ以上の資格を取得している。	資格試験の紹介、取得に向けた指導の充実を図っていく。	
生徒指導	基本的な生活習慣の充実	問題行動生徒0名を目指す。	B	1件の問題行動が発生した。	校内外での生活について、ホームルーム活動や学校行事などで話をし、未然防止に努める。
	交通安全指導の充実	重大交通事故0名を目指す。	B	1件の交通事故が発生した。(けがは軽傷)	交通安全教室や、投稿指導等を実施し、その都度交通ルールの遵守と、マナーについて注意を行う。
学校生活	教育相談の充実	不登校生徒0名を目指す。	C	年間30日以上欠席がある生徒が6名在籍している。	スクールライフアドバイザー等を活用した面談や、保護者との連絡を実施し、生徒の状況把握に努める。
		学校生活の充実感100%を目指す。	A	85%(4年生)であった。	魅力のある学校づくりを目指し、教職員・生徒・保護者・地域が一体となった取り組みが必要である。
進路指導	就職・進学指導の充実	就職希望者全員の就職実現を目指す。	B	新規に1人が就職内定し、現在1人が就職活動継続中である。	進路意識を高める教育実践、およびコミュニケーション能力の向上を図る。
		進学希望者全員の希望実現を目指す。	A	志望校に全員合格した。	基礎学力の充実を図っていく。
特別活動	特別活動の充実	愛媛県定通制総体に、運動部生徒の半数以上の出場を目指す。全国定通大会に、3名以上の出場を目指す。	B	1名が全国大会に出場(バドミントン女子)運動部に加えながらも活動をしていない生徒も多く、定通制総体に3種目に10名の出場であった。	生徒数も減少しており、運動部に所属しながらも、活動しない生徒が多く、部活動の見直し(廃部・休部)などを行う必要がある。
業務改善	定時退勤の推進	教材や指導方法を工夫し、授業及び部活動を効率的に行い、定時退勤を呼びかける。	A	全教職員が効率よく業務を遂行し、概ね定時退勤ができた。	今まで以上にこまめな声掛けをし、職員室の風通しを更に良くすることで、遠慮なく定時に退勤しやすい雰囲気をつくる。
	職場環境の整備	風通しのよい職員室を目指し、コミュニケーションをアップを目指す。教員のメンタルヘルス対策として、定期的に健康相談等の面談を行い、教員の健康障害0名を目指す。	A	前・後期に1回の面談を行うとともに、日頃から教職員同士のコミュニケーションを活発に行い、様子を見ながら随時に面談を行った結果、教員の健康障害は0名であった。	今年度以上に、日頃から教職員同士のコミュニケーションを活発に行い、管理職が率先して会話しやすい雰囲気をつくる。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。